



汽水域研究会 (JAES) NEWS LETTER

汽水域研究会発行 (本号編集責任者: 作野裕司, sakuno@hiroshima-u.ac.jp)

年2回 (4・10月) 発行

第3号

2011年5月30日発行

1. 東日本大震災に対する本会会長からの緊急声明



この度の東日本における未曾有の大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。とくに、私たち研究会会員が調査・研究等で日頃お世話いただいております沿岸域・河口域にお住まいの方々の多くが被災され、現在も避難所等で厳しい生活を強いられていると報じられております。そのご苦労とご心痛は計り知れないものがありますが、一時も早い救援と復旧がなされることを祈念しております。研究会会員におかれましても、今後、被災地に調査等で行かれることがあろうかと思いますが、被災された皆様に十分な配慮をしつつ、今回の災害に関する汽水域における事象を正確かつ詳細に記録し、今後の防災等に役立てる努力をしていただきたいと思っております。

汽水域研究会会長 高安克己

2. 汽水域研究会2011年総会・大会開催報告

汽水域研究会の2011年総会・大会が、2011年1月8～9日の2日間、くにびきメッセ (島根県松江市) で当初の予定通り開催された。本大会は、昨年同様、「島根大学汽水域研究センター第18回新春恒例汽水域研究発表会」も同時開催となった。このうち、汽水域研究会の大会としては、汽水域研究会2011年総会と合同研究発表会が行われた。



大会初日の夕方、汽水域研究会第2回総会 (2011年総会) が開催された。参加者は19名 (内委任状2名) であった。会長挨拶、議長選出 (召古副会長) があり、大会・情報・編集・企画の各幹事から2010年度の活動内容と2011年度活動計画がそれぞれ報告された。また2010年度決算/監査報告があり、承認された。

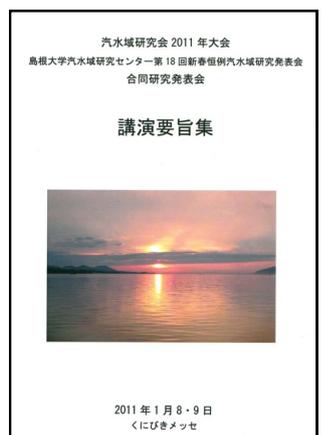
大会 (研究発表) は5つの常設セッションと、公募によるスペシャルセッション3件 (「中海における汽水域生態系の再生と長期生態学研究」, 「内湾から汽水域に記



録された有史時代の汎世界的な環境変動と人為的環境変化」, 「中海・宍道湖の二枚貝の現状と課題」), シンポジウム1件 (「宍道湖で何が起きているのか?」) がそれぞれ開催された。大会は約140名の出席者で、活発な議論がなされ、盛況の下無事大会を終えた。

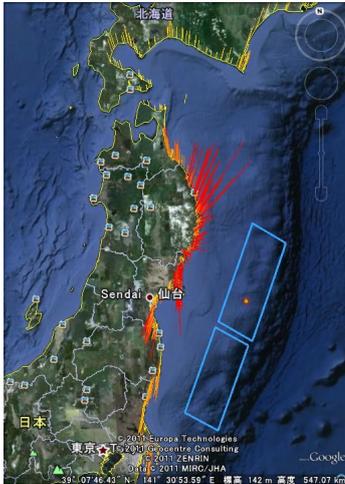
目次:

1. 緊急声明	1p
2. 大会・総会報告	1p
3. 震災時のML	2p
3. MLつづき	3p
4. イベント紹介	4p
5. 募集とお知らせ	4p





3. 東日本大震災直後の汽水域研究会MLのやりとり



津波の高さ（『東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ』）

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、戦後最大と言われる未曾有の被害を主として関東・東北地方にもたらした。情報幹事である作野は、震災発生時には海外に滞在していたため、会員の皆様に情報をただちに発信することが遅れてしまった。帰国後、すぐに汽水域研究会のMLで情報交換を呼びかけたところ、複数の会員の方から貴重な情報をいただいた。震災後、数カ月が経ち、記憶が薄れがちであるが、この大震災の教訓を残すため、当時の切迫したMLのやりとりをできる限り掲載することにした。

2011/3/15 10:07（情報幹事 作野より）

表記「河川汽水域の環境に関するワークショップ」の案内を先日致しましたが、地震の影響をうけて延期になったそうですので、お伝えします。同研究会で関東・東北地方の関係者の方の安否が気遣われるところです。安否情報はこのMLでも可能であれば情報交換していただくと、助かります。高安会長のご自宅も大丈夫でしたでしょうか？

私は、昨日までドミニカに出張しておりましたが、ドミニカのような日本の裏側でも日本のニュースはTOPニュースで連日報道されていました。帰りは昨日、3/14（月）に成田空港に無事着きましたが、成田ー広島便は欠航（運航するIBEXの本社が仙台にあるため）でした。また計画停電の影響で、成田からの電車はすべてストップ、我々は成田から羽田へリムジンバスで移動後、無事広島に戻りました。

また、研究者仲間からは、筑波にある国立環境研究所でも大きなダメージがあり、現在研究できる状況ではないことが伝えられております。東京大学の海洋研究施設のある大槌（おおつち）では、町は壊滅的ですが、施設の教員・学生は無事であったと衛星海洋グループのMLで伝えられております。その他、東北大学関係者との連絡はまだほとんどつかないようです。

以上、被災された地域の皆様、また被災状況の把握に「汽水域研究会」としても、何らかの貢献ができないか、ご意見をいただければ幸いです。

2011/3/15 16:12（都筑良明会員）

鉄道の運行状況等は、マスコミ報道等にあるような状況です。ローカルな情報で恐縮です。千葉市周辺は、昨日は陸の孤島となっていましたが、本日は総武線が走り出したようで、何とか東京との交通が回復しつつあるような感じです（京成は千葉方面はまだ止まっています）。しかし、千葉市以東の交通は、内房線が何本か走り始めましたが、回復は明日以降になるような状況です。

2011/3/15 17:54（情報幹事 作野より）

都筑さん、ありがとうございます。情報を集約する意味で、個人的に以下のHPを臨時開設しました。今回の地震・津波におけるリモセン画像などのリンクを集めています。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sakuno/bousai/earthquake2011.html>



震災直後の石巻付近の衛星画像（2011年3月14日撮影のASTER画像）©METI/NASA

**2011/3/15 20:23 (倉田健悟会員)**

情報幹事の作野さんから安否情報の確認についてご提案がありました。その後、会員の都筑さんから千葉市周辺の状況について、作野さんから今回の地震と津波に関する有益なWebサイトについて、情報がありました。会員の皆様の状況が心配されることです。そこで、汽水域研究会の会員名簿から、地震や津波の影響があったと思われる地域に住所のある方の人数を調べたところ「北海道・東北地方：3名、関東地方：7名」でした。住所からはおそらく、安否という点では無事であると推測されますが、もし関係する情報がありましたら、このMLにてお知らせいただければと思います。また、私が参加している別のMLで、臨海実験所などの状況について情報がまとめられたWebページの紹介がありましたので、転載します。（ここでは以降の内容の掲載は控える）

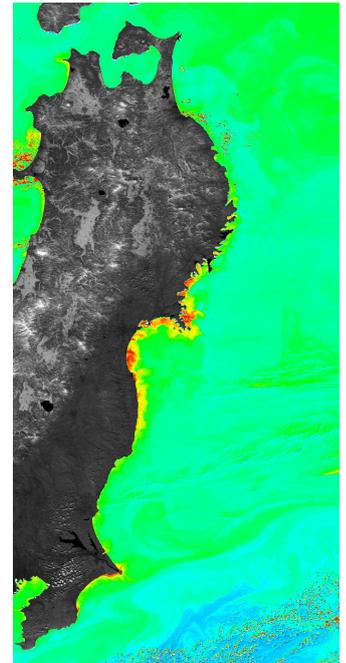
2011/3/18 18:47 (植田真司会員)

こんにちは、青森在住の植田です。みなさん、ご心配いただき有り難うございます。未だ、余震が続く状況で、バタバタと仕事をこなしています。やっと、ネットが使える環境になったので、汽水域研究会のみなさまへ東北在住のものとして報告させていただきます。今回、地震により亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災地に避難されている方々の一刻も早い復旧、復興をお祈りします。青森も被災地ではありますが、私は3日間の停電により、暖房の無い寒い夜を過ごす程度ですみました。ただし、八戸漁港、三沢漁港は壊滅的な被害を受けました。現在、ニュースでも出ていますが、燃料（特に、ガソリン、灯油）の不足が際だっています。もちろん、食糧も不足していますが、燃料が一番です。こちらは、まだまだ雪が降り、寒い日が続いています。公共交通機関の燃料も不足しており、身動きがとれない状況です。早く燃料を輸送していただき、一般の方々にも行き届くことを切に願います。

さて、私は、当日勤務先の六ヶ所村にいましたが、今まで経験したことのない揺れでした。東北地方は、比較的頻繁に地震が起きるため、またかと言う感じでしたが、さすがに今回は立ってられない上に、停電するといった状況でみな焦りました。六ヶ所村自体は大きな被害は無かったように聞いています。

六ヶ所の汽水域については、尾駸（オブチ）沼及び鷹架（タカホコ）沼に関しては水位上昇が見られたものの、大きな被害は受けていないとのこと。尾駸沼の漁師さんは1m程度の水位上昇が当時あり、漁網に海藻・海草が付着するといった軽微な被害はあったようです。私の見る限り、大きな被害はなかった感じです。一方、小川原湖と太平洋をつなぐ高瀬川は濁流（真っ黒なといった感じです）が流れ込み、河川の両脇の木々が川に倒れていました。通勤経路なので、帰りに濁流を見ることができました。相当量の水（濁流）が流れ込んだことが推測されます。

仕事柄、福島原発の状況には非常に注視しています。関係者の方々は一生命に頑張っておられます。とにかく、速やかな収束を願っています。それでは、長くなりましたが、皆様におかれましてもお身体にはくれぐれもお気をつけ下さい。



震災直後の推定濁度分布。青→緑→黄→赤の順で濁りが大きいと推定される。2011年3月13日のMODISデータ使用（作野、未公表）





事務局の連絡先

(平成21年11月1日～平成23年12月31日)
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
島根大学汽水域研究センター内

TEL 0852-32-6436

FAX 0852-32-6436

お問い合わせ先：office.rgbwa@gmail.com

汽水域研究会のホームページ

<http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/>

関心のある方は
是非ご一報を!

4. 汽水域関連イベント (2011年度4～10月)

(1) 中海自然再生協議会主催シンポジウム

「これからのラムサール登録湿地のありかた ―中海・宍道湖の自然再生と賢明な利用―」

講師：辻井達一 (環境省自然再生専門家会議委員長)

日時：2011年5月28日 (土) 13:00-14:30

場所：松江市くまびきメッセ501大会議室

参加費：無料 (資料代500円)

(島根大学, 國井秀伸)

(2) 汽水域関連学会・シンポジウム

日本陸水学会第76回大会

会期：2011年9月22日 (木) ~25日 (日)

会場：島根大学教養棟 (松江)

HP：http://www.soc.nii.ac.jp/jslim/

日本海洋学会秋季大会

会期：2011年9月22日 (火) ~26日 (金)

会場：九州大学筑紫キャンパス (福岡)

HP：http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/

第15回応用生態工学会

会期：2011年9月14日 (水) ~17日 (土)

会場：金沢学院大学 (金沢)

HP：http://www.ecesj.com/J/index.html

5. 汽水域研究会からの募集とお知らせ

(1) Laguna (汽水域研究)の原稿募集

「Laguna (汽水域研究)」第18巻の原稿を募集します! ホームページに掲載されている投稿規程と執筆要領を参考に、投稿票とともに編集委員会まで原稿をお送り下さい。

投稿先：Laguna.editor@gmail.com

(島根大学, 國井秀伸)

(2) 2010年/2011年会費納入のお願い

会員の方々には各会計年に会費を納入していただくことになっていきますので、まだ納入されていない会員は会費の納入 (2010年会費がまだの方は2年分) をお願いいたします。会費の振り込み用紙は後日このニュースレターとともに発送致します。

(島根大学, 山口啓子)

(3) 会員数 (2011年4月8日現在)

正会員：58名, 賛助会員：2名, 学生会員：3名, 計63名

(4) 研究会の入会方法

入会をご希望の方は申込用紙に記入の上、研究会事務局までメールかFAXでお申込み下さい。

汽水域研究会ホームページ：http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/

よりMS-Wordファイルの申込用紙をご利用ください。

(島根大学, 倉田健悟)

(5) 汽水域研究会の関連リンク先の情報をお知らせください!

汽水域を対象とした研究に関するWebページ、国内学術団体、海外学術団体、汽水域研究会会員のWebページなど、汽水域研究会のWebページに掲載したら良いと思うリンク先を事務局までお寄せください。

(島根大学, 倉田健悟)



編集後記

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、落ち着いたまま数カ月が経ち、ニュースレター3号の発行も1か月ほど遅れてしまったことをまずは深くお詫び申し上げます。今回のニュースレターでも、少しでもこの震災を教訓にすべく、特集を組みました。私の手元には、震災後たくさんの衛星データや空中写真が無料で入手できる環境にありましたが、画像を見ただけでその被害のすさまじさに唾然とするばかりでした。震災復興に研究会としても何らかのお役に立てないかと思うこのごろです。改めて、震災で亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

(広島大学, 作野裕司)